

科目名	地理学の基礎Ⅱ	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Geography Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	いちかわ たかし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	市川 聖	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	地誌学概論				
到達目標	1. 地理学の知識を応用して、グローバルな視点で諸事象を分析できる資質を養う。 2. 日本を含めた世界の地誌について分析できるようにする。				
授業概要	1. 地理学の知識を応用して、諸事象を分析する資質を養う。 2. 地理学的な分析手法を習得する。				
授業計画					
第1回	ガイダンス	地誌学とは何か、歴史地誌の方法			
第2回	ヨーロッパの地誌1	EUの広域動態地誌—西ヨーロッパの農業と工業—			
第3回	ヨーロッパの地誌2	EUの広域動態地誌—ウクライナの経済と地理—			
第4回	オセアニア	オーストラリアとニュージーランド、両極地域			
第5回	東アジアの地誌1	中国の社会構造と地理			
第6回	東アジアの地誌2	日本との比較交流地誌—韓国の事例—			
第7回	東アジアの地誌3	東南アジアの観光とフィリピンのスモークマウンテン			
第8回	南アジア・西アジア	インドの社会とIT産業、南アジアの世界遺産			
第9回	ロシア	ロシアの地誌			
第10回	日本の地誌1	グローバル化と日本の地誌			
第11回	日本の地誌2	アジア地誌と日本の関係			
第12回	日本の地誌3	身近な地域の地誌			
第13回	南北アメリカの地誌1	アメリカ合衆国—多様性と統一性の地誌—			
第14回	南北アメリカの地誌2	ラテンアメリカ—社会構造と資源—			
第15回	アフリカ	サハラ以南を中心としたアフリカの地誌			
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 授業開始前に、前回講義内容の確認テストを行うこともあります。前回講義の復習をしっかりと行ってください。(1.5時間程度) 3. 日常的に地理的(地形、風土など)な観察を行うように心がけてください。 4. 地域社会の課題について新聞やニュースを通して考えるように心がけてください。				
履修条件 受講のルール	特にありません。 地理学の基礎Ⅰでは「系統地理」、地理学の基礎Ⅱでは「地誌学」を中心に講義します。				
テキスト	特にありません。講義中に資料を配布します。				
参考文献・資料	講義中に紹介しますが、以下の文献では地誌学の基礎を学ぶことができます。 帝国書院『新詳高等地理』 菊池俊夫『日本(世界地誌シリーズ)』朝倉書店(2011)				

成績評価の方法	<p>総合評価【定期試験(60%)、レポート・小テスト(40%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行うこともあります。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	講義時間前後
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>日常的に「考える」という作業を心がけてください。知識を暗記するだけでなく、現代の社会で実際に知識を応用することを意識してください。「地理学の基礎Ⅱ」では、日本のみならず世界の地誌を解説します。世界を見渡すような学びにしてください。</p>